

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	つくば市福祉支援センターとよさと		
○保護者評価実施期間	令和8(2026)年1月12日		～ 令和8(2026)年2月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25家庭	(回答者数) 16家庭
○従業者評価実施期間	令和8(2026)年1月12日		～ 令和8(2026)年2月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月10日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	親子通園であり、保護者と職員がコミュニケーションをとりやすいこと。	保護者様と同じ場面を共有することで、お子さんの得意なところや苦手の背景を一緒に考え、お子さんをより肯定的にみられる支援を意識している。ご家庭の様子を伺いやすいからこそ、切り離された特別な支援ではなく、ご家庭に持ち帰りやすく、より具体的な支援を提案を行いたい。保護者様に寄り添ってご家庭全体をサポートしたいと考えている。	今後もお子さん一人一人に対して、全職員が理解を深め、発達や行動観察する力をより身につけていく。発達ニーズに応じた活動提供や保護者様、お子さんに寄り添った支援を行っていききたい。
2	お子さんの所属園(幼稚園や保育所)への連携訪問の継続により連携関係が強まってきていること。	年2～3回の訪問を通してお子さんの様子を把握するとともに、その子の「生活の場」としての所・園生活がより安心して充実できるように情報共有に努めたいと考えている。	今後も連携訪問を継続し、所属園との連携を深めていく。相互に情報共有ができる関係性を構築する中で具体的な支援アイデアの提案を行っていく。
3	多職種(保育士、言語聴覚士、作業療法士など)の職員が携わっていること。	それぞれの視点でお子さんをアセスメントすることにより、お子さんへの理解を深められるようにしている。その子の強みを幅広い視点で捉えられるように意識している。	それぞれの専門分野を生かし、職員間でも共有することにより職員各々のスキルアップにもつなげていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	個別的な目標を意識しつつも、集団での課題や流れを個々に合わせることが難しいことがある。 保護者様との具体的な「ねらい」と「達成基準」の共有に不十分さがある。	クラス編成や指導形態について柔軟に対応できておらず、年齢別の集団指導しか提供できていない。 保護者様との目標や達成の共有に向けたスキルの未熟さがある。	他の事業所への視察を生かしてクラス編成等を柔軟に考えられるようにする。 より良い支援やより良いサービス提供に向けを常に意識し全職員で考えていく。 保護者様との丁寧な予測や振り返りを今以上に行っていく。
2	職員の経験や背景によってお子さんへの評価スキルに差がある。 職員間での共有に時間を要することが多い。	事業所内で行えるアセスメントがインフォーマルの物に限られている。支援の根拠を示す際に難しさを感じる。	研修機会は積極的に設定しているので今後も継続していく。 行動観察であっても標準化されたアセスメントを行ってほしい。
3	面談予定や懇談会予定などの連絡や、各種マニュアル等の周知を全体的にタイミングよく行うことが難しい。	周知方法が配布や郵送、電話に限られていて欠席などの利用状況に影響受けやすい。 タイミングよく電話連絡が行えない時がある。	双方にとって負担の少ない連絡方法(LINE等)のツールの導入ができるといい。 予定の共有は大切なことであるため徹底して根気よく連絡を行っていく。